

「古い契約と新しい契約」（心が変えられる救い）ヘブル8：1－13

18・9・9

I さらに優れたキリストの務め。：1－6。

	「私達の大祭司キリスト」	「旧約時代の大祭司」
①	「天におられる大いなる方（父なる神）の御座の右に座し」て、 とりなしておられる方。：1	地上にいた。：4
②	「人間によってではなく、主（神）によって設けられた、 真の幕屋、聖所（天）で仕えておられます」：2	人間が設けた幕屋（出25－30）で 仕える人々。
③	いつも天の神のそば（聖所）におられる。	年に一度だけ（9：7）、 至聖所（神の臨在されるところ）に入 った。
④	私達の罪の赦しの為に、ご自身のいのち、血を、いけにえとして ささげられた。 「大祭司はみな、ささげ物といけにえを捧げるために任命されて います」：3	自分の命ではなく、動物をささげた。

II 古い契約。：7－9

1. 「もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、第二の契約が必要になる余地はなかったはずで
す」：7

2. この初めの契約とは→

「その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握ってエジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約（「私
たちは主の言われたことをすべて行います」出19：8。行いによる救いの契約。出19：5－8、出2
4：3－8参照）のような。彼らはわたしの契約にとどまらなかった（神に背いた）ので、わたし
も彼らを顧みなかった」：9。

①神の側からの民への命令は、十戒（出20：1－17）とその他の戒め＝モーセの律法。

これらを守るなら祝福される、神の宝の民となるという契約（出19：5，6）。

②それに対する民の側からの答え＝「わたしたちは主の言われたことをすべて行います」

（出19：8，24：3）

3. それでは、その初めの契約には「欠け」があった（ヘブル8：7，8）とは、どういう意味だろう？

①それは、まず、契約の内容である神の戒め、律法自体に欠けがあったのではない。

（※旧約聖書とは、この旧契約の書という意味であり、新約聖書とは、後で学ぶ新しい契約の聖書という
意味）。

神の正しい戒め、律法、十戒が、欠けがあったのではない。今も、私達にとり、旧約聖書は大切な御言葉
である。

その旧約の時代も、ただ、神の戒めを守り、一つの罪も赦されないのではなく、神と人の仲介の祭司によ
るいけにえにより、罪を告白する者は赦された。

実は、その祭司も、動物のいけにえも、イエス様と主の十字架の血のいけにえを予表、指し示すものだっ
た。

②その「欠け」とは、民の側が、真に心が新しくされることがなく、何度も神に背き、契約（神の律
法と、自分達がすべて行いますと言った約束）を守り通さなかったこと。

神は、預言者を次々に立て、契約を守るように何度も戒め、励まされたのだが…。

③民は、御言葉を頭で知り、良く暗記までしていたが、真に心をきよめ、新しくする事は出来なかった。

Ⅲ 新しい契約。： 10－13

1. 初めの契約と新しい契約の祝福の共通点＝

「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」： 10

(出6：7、19：5、6、レビ26：12、エゼキエル11：20、ゼカリヤ8：8、13：9、黙示録21：3)。

この「神と民の密な関係の祝福」は、同じだった。

2. 相違点＝

「わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す」： 10。

神は、モーセの時代に、石の板に十戒を書き記された

(出24：12、32：15、16、申命記10：1－4)。

しかし、主が私達の罪の為に十字架で死なれ、救いを完了された新約時代は、神は、石の板にではなく、主を信じる私達の心に神の律法、戒め、御言葉、御心、真理を書き記して下さる。

何という恵み！

具体的には、それはどのようにして、それを実行なさるのだろうか。

それは、真理（神の律法、御心、御言葉）の御霊が、私達の心に宿られる事によってである。

「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます」(ヨハネ16：13)。

私達の心に宿られる御霊なる神は、私達に、神の律法、御言葉、御心の理解とそれらを実行する新しい心（新生）、力、喜びを与えて下さる。

私たち人間は、何が正しいか知ったとしても、それを実行する心、力がない。

御霊なる神は、主を信じる信仰を与え、新しく生まれさせ、新しい心、御言葉の理解、善悪の判断と共に、神の喜ばれる事を実行する心、力も与えて下さる！ハレルヤ！

※但し、ここで誤解してはならないのは、「神が主を信じる人の心に御聖霊により、神の律法、御言葉を書き記されるので、もう、聖書は、必要ない」という事ではない。地上にいる間は、神が与えられた聖書なしに、すべて、御心が分かり、実行できる完全な人は、いない。

3. 神が新しい心を与えて下さる故に、「小さい者から大きい者まで、わたし（主なる神）を知るようになる」： 11。

神を知る＝心で信じ、頭ではなく、御言葉と御聖霊の力で、心で神を知り、深く神と交わるようになる。

4. 「わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ」： 12。

私達の罪の為に主の十字架という完全な身代わりの死が完成したからこそ、私達の告白する罪を神は、完全に赦し、「もはや私達の罪を思い起こさない」お方！何という恵み！

5. 「神は、『新しい契約』と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました」： 13。

まとめ。

①契約＝「神が人間と結ばれた約束。神は人間が律法を完全に守るなら永遠の命を与えるが、破るなら死を与えるという（古い）契約を結ばれた。しかし、人間が罪を犯してこの契約を破ったので、神は人間を罪の刑罰から救い出すために、行いによってではなく、私達の罪の為に十字架で死なれ復活された主を信じる信仰によって義（無罪、神との正しい関係の回復）とする恵みの（新しい）契約を結ばれた。

先行する恵みを心から感謝します。

②旧契約の行いによる救いでは、誰も救われない。

しかし、新契約の、主を信じる信仰による救いは、どんな人でも救われる。

信仰により救われた人は、すでに救われているので、救いのためではなく、救いへの感謝と御聖霊による力、新しい性質、命により、かえって、神を喜ばせる行いをする。

ハレルヤ！感謝します！